

雨水貯留・浸透槽用貯留材 アクアブラ工法

アクアブリック

第4回 国土技術開発賞 受賞

アクアブラ工法

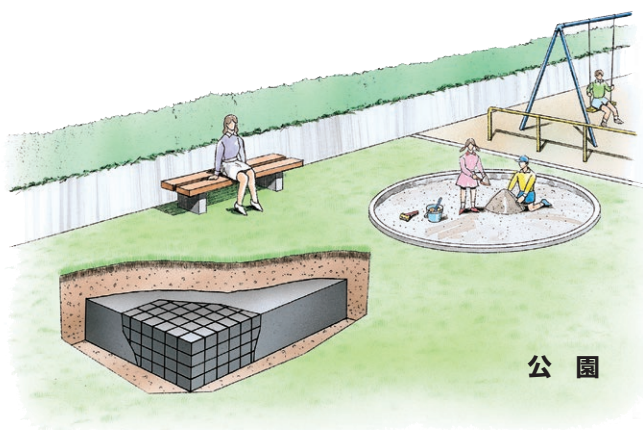
穴付き板とパイプを組み合わせた
梁・柱構造のプラスチック製貯留材を
用いた雨水貯留浸透工法のこと



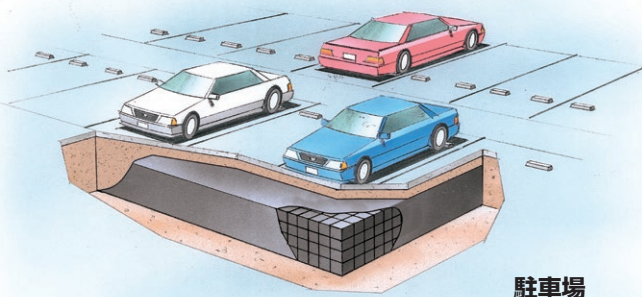
アクアブリック ユニット
(4段積の場合)

利 点

プラスチック製のブロック形状のため、狭小な土地にでも容易に設置できます。



公 園



駐車場

施工の省力化

1ユニットは約2kg程度と軽く、人力施工が可能です。
部品点数も3点と少なく、特別な工具も必要ありません。

土地の有効活用

地下にコンパクトな貯留・浸透槽を設置するため、上部の土地は
駐車場、公園、歩道等に活用できます。

優れた経済性

高い空隙率による掘削量、残土量の抑制、人力による迅速な
施工でトータルコストを低減できます。

環境に配慮した素材

素材のPP(ポリプロピレン)は、再生材料を使用しています。

シンプルな構成

ユニットサイズは□約500mm×高さ約250mmで設計自由度が高く、空隙率は部材
構成により93～96%の範囲の中で、効率的な雨水の貯留が可能。

高強度 T-25に対応

車両総重量25tまでの車両乗り入れが可能(AB-13の場合、鉛直方向の許容圧縮応力は
209kN/m²)。最適な形状設計で製品の発生応力を分散し、軽量かつ高強度を実現。
(土被り50cm以上)

完成寸法(例) (4段の場合)

